
全国大会

第1回大会 (1996年8月23~24日) 大阪YMCA国際文化センター

- 講演 「再創造としての演奏行為」遠藤郁子
課題研究Ⅰ 音楽の授業における楽しさとは—その1 作る活動を中心に—
課題研究Ⅱ 「共に学ぶ音楽教育—通常学級と特殊学級及び養護学校—

第2回全国大会 (1997年8月23~24日) 大阪国際交流センター

- 講演 「教科における子どもの見方・とらえ方を問い直す」長岡文雄
課題研究Ⅰ 音楽の授業における楽しさとは—その2 演奏活動を中心として—
課題研究Ⅱ 共に学ぶ音楽教育
—異なる学校・学級・学年間の交流の実践からみえてくるもの—
重点研究Ⅰ 音楽科と他教科との関わり
重点研究Ⅱ 日本の伝統音楽の指導と学習
重点研究Ⅲ 障害児教育において一人ひとりの表現をどうとらえるか

第3回全国大会 (1998年8月22~23日) 南大阪地域地場産業振興センター

- 講演 「思春期の危機と成長—精神科医の視点より—」服部祥子
課題研究Ⅰ 音楽の授業における楽しさとは—その3 鑑賞活動を中心として—
課題研究Ⅱ 共に学ぶ音楽教育—学び合いからみえる新しい視点—
重点研究Ⅰ 音楽科と他教科との関わり
重点研究Ⅱ 日本音楽の指導と学習
重点研究Ⅲ 障害児教育において一人ひとりの表現をどうとらえるか
重点研究Ⅳ 思春期の発達の特性と音楽教育の在り方

第4回全国大会 (1999年8月21~22日) 洗足学園大学

- シンポジウム 「学習指導要領とこれからの音楽科教育」
課題研究 音楽の授業における楽しさとは—子ども同士のかかわり合う姿から—
重点研究Ⅰ 音楽科と他教科との関わり
重点研究Ⅱ 日本音楽の指導と学習
重点研究Ⅲ 障害児教育において一人ひとりの表現をどうとらえるか
重点研究Ⅳ 思春期の発達の特性と音楽教育の在り方
-

第5回全国大会 (2000年8月17~18日) オリンピック記念青少年総合センター

- シンポジウム 「学校教育において日本伝統音楽の学習をどう位置づけたらよいか」
課題研究 音楽の授業における楽しさとは一共に学ぶ楽しさの次元と広がり—
重点研究Ⅰ 音楽活動を含む「総合的な学習の時間」の展開
重点研究Ⅱ 世界の諸民族の音楽の指導と学習
重点研究Ⅲ 障害児教育における一人ひとりの表現をはぐくむ授業
重点研究Ⅳ 思春期の発達の特性と音楽教育の在り方
-

第6回全国大会 (2001年8月17~18日) 奈良教育大学

- お話と実演 「太棹の魅力」鶴沢清介
課題研究 21世紀の音楽科のカリキュラム開発
重点研究Ⅰ 音楽活動を含む「総合的な学習の時間」の展開
重点研究Ⅱ 世界の諸民族の音楽の指導と学習
重点研究Ⅲ 障害児教育における一人ひとりの表現をはぐくむ授業
重点研究Ⅳ 現代音楽の指導と学習
-

第7回全国大会 (2002年8月17~18日) 名古屋芸術大学

- お話と実演 「打楽器の魅力」山口恭範
課題研究 21世紀の音楽科のカリキュラム開発
—その2 これまでの遺産から学ぶ—
重点研究Ⅰ 音楽活動を含む「総合的な学習の時間」の展開
重点研究Ⅱ 世界の諸民族の音楽の指導と学習
重点研究Ⅲ 障害児教育における一人ひとりの表現をはぐくむ授業
重点研究Ⅳ 現代音楽の指導と学習
-

第8回全国大会 (2003年8月17~18日) オリンピック記念青少年総合センター

- 課題研究 21世紀の音楽科のカリキュラム開発
『音楽の生成を核にした音楽教育の理論と実践』
—その3 新しいカリキュラムの枠組み—
重点研究 現代音楽の指導と学習
プロジェクトJ 学力と評価
-



第9回全国大会 (2004年8月23~24日) オリピック記念青少年総合センター

課題研究 21世紀の音楽科のカリキュラム開発
『音楽の生成を核にした音楽教育の理論と実践』
—その4 現代音楽や地域の音楽をカリキュラムにどう位置づけるか—

プロジェクト J-I 学力と評価

プロジェクト J-II 通常の学級における障害児教育のあり方

プロジェクト J-III 多媒体による総合的な表現

第10回記念大会 (2005年8月19~20日) 大阪音楽大学

お話と実演 「日本民謡の講演と実技」伊藤多喜雄

課題研究 21世紀の音楽科のカリキュラム開発
『音楽の生成を核にした音楽教育の理論と実践』
—その5 21世紀の音楽科カリキュラムの提案—

プロジェクト J-I 学力と評価

プロジェクト J-II 通常の学級における障害児教育のあり方

プロジェクト J-III 多媒体による総合的な表現

第11回全国大会 (2006年8月19~20日) 大阪樟蔭女子大学

ワークショップ 「現代音楽の教材開発」現代音楽の技法 — 石田一志 —

課題研究 「音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較研究」その1 日本とカナダ国
ブリティッシュ・コロンビア州との比較を通して

プロジェクト J-I 音楽の生成をねらいにした授業構成

プロジェクト J-II 通常学級において障害児教育から学ぶものは何か

プロジェクト J-III 多媒体による総合的な表現

第12回全国大会 (2007年8月18~19日) くらしき作陽大学

ワークショップ 「現代音楽の教材開発」その2 西村朗作品の魅力を子どもたちに
— 西村 朗 —

課題研究 「音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較研究」その2 自国の伝統音楽
の扱いをめぐって日本と韓国との比較を通して

プロジェクト J-I 音楽の生成をねらいにした授業構成

授業づくりプロジェクト

I 子どもが歌いたくなる合唱指導の方法

—諸要素や曲想と子どもとのかかわりに着目して—

II 「特別支援学校」になって音楽の授業はどう変わるのか

—みんなでやってみよう、ボディパーカッション—

第13回全国大会 (2008年8月23~24日) オリンピック記念青少年総合センター

ワークショップ 「現代音楽の教材開発」その3 人間のコスモロジーの反映としての音楽
— 湯浅譲二 —

課題研究 「音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較研究」第3年次 “批評”の扱い
をめぐって—日本と米国カリフォルニア州との比較を通して

プロジェクト J-I 音楽の生成をねらいにした授業構成 (最終年次)

授業づくりプロジェクト

- I 子どもが歌いたくなる合唱指導の方法 (休止)
- II 「特別支援学校」になって音楽の授業はどう変わるのか (第2年次)
講師 佐藤慶子 (作曲家、メディア・ワークス代表)

第14回全国大会 (2009年8月22~23日) オリンピック記念青少年総合センター

ワークショップ 「現代音楽の教材開発」その4 Holism~音楽の多様性~ — 一柳 慧 —

課題研究 「音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較研究」第4年次 音楽科の学力
育成をめぐって—日本とドイツ・ベルリン州のカリキュラム比較を通して

授業づくりプロジェクト

- I 子どもが歌いたくなる合唱指導の方法 (第2年次)
— わらべうた等による輪唱やカノンによって表現する教材を通して —
- II 「特別支援教育」になって、音楽の授業はどう変わるのか (第3年次)
— 鑑賞活動における「困り感」をどう解消するか —
- III 子どもが楽しむ構成活動 (音楽づくり・創作) の授業 (第1年次)
- IV 子どもが活動する鑑賞の授業 (第1年次)

第15回全国大会 (2010年8月21~22日) 岐阜大学

ワークショップ 「現代音楽の教材開発」その5 音そのもの Ton an Sich — 姜 碩熙 —

課題研究 「音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較研究」第5年次 音楽科の学力
とその到達目標をめぐって—日本と英国のカリキュラムの比較を通して

授業づくりプロジェクト

- I 子どもが歌いたくなる合唱指導の方法 (第3年次)
— 中学生による「構成活動」としての声のアンサンブル —
- II 特別支援学校の音楽の授業をどのように展開するか (第1年次)
— 小学部の場合 —
- III 子どもが楽しむ構成活動 (音楽づくり・創作) の授業 (第2年次)
— 高学年における「反復・変化」を指導内容とした音楽づくり —
- IV 子どもが活動する鑑賞の授業 (第2年次)
— 「構成活動」としての「身体表現づくり」を取り入れた鑑賞授業 —

第16回全国大会 (2011年8月20~21日) 花園大学

セミナー 「演奏家が語る〈演奏が生まれるまで〉」その1 —Violinist 森 悠子—

課題研究 「日本伝統音楽のカリキュラム再創造と授業実践」

その1 21世紀音楽カリキュラムによる実践の成果と今後の課題

生成の原理による授業開発プロジェクト

- I だれもが主体的に参加できるアンサンブルの授業 (第1年次)
—小学校高学年における手づくり楽器によるアンサンブル—
- II 特別支援学校の音楽の授業をどのように展開するか (第2年次)
—中学部の場合—
- III 子どもが楽しむ構成活動 (音楽づくり・創作) の授業 (第3年次)
—思春期の発達特性を生かしたボディーパーカッションの創作—
- IV 子どもが活動する鑑賞の授業 (第3年次)
—対話を通じた「構成活動」としての「音楽批評文づくり」—

第17回全国大会 (2012年8月18~19日) 鳴門教育大学

セミナー 「演奏家が語る〈演奏が生まれるまで〉」その2 —箏演奏家 吉村七重—

課題研究 「日本伝統音楽のカリキュラム再創造と授業実践」

その2 実践事例にみる指導内容の具体的な姿

生成の原理による授業開発プロジェクト

- I だれもが主体的に参加できるアンサンブルの授業 (第2年次)
—小学校高学年におけるリズムアンサンブル—
- II 特別支援学校の音楽の授業をどのように展開するか (第3年次)
—高等部の場合—
- III だれもが主体的に参加できる構成活動 (音楽づくり・創作) の授業 (第1年次)
—鑑賞教材の特徴を模倣することから始める旋律づくり—
- IV だれもが主体的に取り組む鑑賞の授業 (第1年次)
—「指揮的表現」を取り入れ知覚・感受を深める鑑賞授業—

第18回全国大会 (2013年8月17~18日) お茶の水女子大学

セミナー 「演奏家が語る〈演奏が生まれるまで〉」その3

—文楽三味線演奏家 鶴澤清介—

課題研究 「日本伝統音楽のカリキュラム再創造と授業実践」

その3 カリキュラムにおける三つの柱の関連づけについて考える

生成の原理による授業開発プロジェクト—仮説生成模擬授業を通して—

- I だれもが主体的に参加できるアンサンブルの授業 (第3年次)
—小学校中学年における器楽アンサンブル—
- II だれもが内面を表出できるよう支援する授業 (第1年次)
—中学校鑑賞教材《魔王》—

- III だれもが主体的に参加できる構成活動（音楽づくり・創作）の授業（第2年次）
—鑑賞教材の特徴を模倣することから始める旋律づくりII—
 - IV だれもが主体的に取り組む鑑賞の授業（第2年次）
—長唄の歌唱を取り入れた歌舞伎《勸進帳》の鑑賞—
 - V だれもが主体的に取り組む鑑賞の授業（小学校）（第1年次）
—「友達に紹介する」交流活動で、友達とともに音楽を味わう—
-

第19回全国大会（2014年8月16～17日） 熊本大学

セミナー 「演奏家が語る〈演奏が生まれるまで〉」その4
—尺八奏者・作曲家 中村明一—

課題研究 「日本伝統音楽のカリキュラム再創造と授業実践」
その4 柱1と柱3の指導事項の検討と実践による検証

生成の原理による授業開発プロジェクト—仮説生成模擬授業を通して—

- I だれもが内面を表出できるよう支援する授業（第2年次）
—ことばかけを工夫した打楽器アンサンブルの指導—
 - II だれもが主体的に参加できる構成活動（音楽づくり・創作）の授業（第3年次）
—オノマトペによる「声の音楽」をつくる—
 - III だれもが主体的に取り組む鑑賞の授業（第3年次）
—身体を通して知覚・感受を深める鑑賞の授業—
 - IV だれもが主体的に取り組む鑑賞の授業（小学校）（第2年次）
—お話づくりを通して「友達と比べる」交流活動—
-

第20回全国大会（2015年8月13～14日） 大阪成蹊大学

セミナー 「演奏家が語る〈演奏が生まれるまで〉」その5
—能楽師 シテ方観世流 大槻文蔵—

課題研究 「日本伝統音楽のカリキュラム再創造と授業実践」
その5 3つの柱を関連づけた授業における評価の実際

生成の原理による授業開発プロジェクト—仮説生成模擬授業を通して—

- I だれもが内面を表出できるよう支援する授業（第3年次）
—多様な子どもが学ぶ音楽の授業—
 - II だれもが主体的に取り組む鑑賞の授業《小学校》（第3年次）
—曲を聴いてつくった身体表現を「友達に実況する」交流活動—
 - III だれもが主体的に取り組む日本伝統音楽の授業（第1年次）
—中学校における「文楽」を教材とした鑑賞授業—
 - IV だれもが主体的に取り組む歌唱の授業（第1年次）
—文化的背景からイメージを引き出す歌唱の授業—
 - V 学生が主体的に取り組む教員養成の授業（第1年次）
—知覚・感受したことを技能につなげるピアノ演習の授業—
-

第21回全国大会 (2016年8月20~21日) 北海道教育大学

セミナー 「芸術家が語る〈創造すること・思考すること〉」その1

デザイナー・彫刻家 五十嵐威暢

課題研究 「音楽科で育成すべき資質・能力とその評価—生成の原理に基づく音楽科授業—」その1 資質・能力にかかわる我が国および諸外国の動向

生成の原理による授業開発プロジェクト—仮説生成模擬授業を通して—

- I 多様な子どもがともに学ぶ音楽の授業 (第1年次)
—音楽学習活動以前に困難がある生徒を「音楽の学び」に導くためには—
- II イメージを軸とした幼児の表現活動の展開 (第1年次)
—楽器づくりからはじまる表現活動—
- III だれもが主体的に取り組む日本伝統音楽の授業 (第2年次)
—小学校における「農村歌舞伎」を教材とした鑑賞授業—
- IV だれもが主体的に取り組む歌唱の授業 (第2年次)
—文化的背景からイメージを引き出す歌唱の授業—
- V 学生が主体的に取り組む教員養成の授業 (第2年次)
—学生が問題意識をもって取り組む「音楽科教育法」の授業—

第22回全国大会 (2017年8月19~20日) 聖徳大学

セミナー 「芸術家が語る〈創造すること・思考すること〉」その2

和紙作家 堀木エリ子

課題研究 「音楽科で育成すべき資質・能力とその評価—生成の原理に基づく音楽科授業—」その2 生成の原理に基づく音楽科授業で育つ資質・能力

生成の原理による授業開発プロジェクト—仮説生成模擬授業を通して—

- I 多様な子どもがともに学ぶ音楽の授業 (第2年次)
—音を音楽へ通級学級の指導から見えてくること—
- II イメージを軸とした幼児の表現活動の展開 (第2年次)
—お囃子の口唱歌からはじまる表現活動—
- III だれもが主体的に取り組む日本伝統音楽の授業 (第3年次)
—郷土の音楽を教材とした器楽授業—
- IV だれもが主体的に取り組む歌唱の授業 (第3年次)
—文化的側面を経験として位置づける歌唱の授業—
- V 学生が主体的に取り組む教員養成の授業 (第3年次)
—学生が自ら考えようとする「教科専門(音楽)」の授業—



第23回全国大会 (2018年8月18~19日) 京都教育大学

講演会 「脳科学からみた音楽教育の意義」

小泉英明 (日立製作所名誉フェロー、日本工学アカデミー上級副会長)

課題研究 「音楽科で育成すべき資質・能力とその評価—生成の原理に基づく音楽科授業—」その3 資質・能力育成のためのスタンダードの考え方

支部プロジェクト

I 近畿支部 「郷土の教材から指導内容を考える」

II 中部支部 「鑑賞の授業における『批評文』をどう評価したらよいか」

III 関東支部 「ユニバーサルデザインの考え方に基づく音楽科の授業づくり」

第24回全国大会 (2019年8月17~18日) 畿央大学

セミナー 「芸術家が語る〈創造すること・思考すること〉」その3

ダンサー 関 典子

課題研究 「音楽科で育成すべき資質・能力とその評価—生成の原理に基づく音楽科授業—」その4 資質・能力育成のためのスタンダードの実際

支部プロジェクト

I 北海道支部 「小学校と中学校の音楽科授業をどのように接続したらよいか」

II 東北支部 「児童の変容が見られる教材教具の工夫 (特別支援学校)」

III 中国支部 「音楽活動における『質』をどのように深めることができるのか (小学校)」

第25回全国大会 新型コロナウイルス感染拡大のため中止

第26回全国大会 (2021年8月21日) オンライン開催

課題研究 「音楽科で育成すべき資質・能力とその評価—生成の原理に基づく音楽科授業—」その5 パフォーマンススタンダードを活用した評価の実際

第27回全国大会 (2022年8月20~21日) オンライン開催

課題研究 「『生成の原理』に基づく音楽科授業における音楽科の教科内容の体系」
その1 「生成の原理」に基づく音楽科の教科内容

支部プロジェクト

- I 四国支部 「郷土の音楽を教材とした授業デザインに、文化的側面はどう位置づくるのか—《阿波踊り》の場合—」
- II 九州・沖縄支部 「教員養成課程における学生の音に対する感性をどのように育成すればよいか」

第28回全国大会 (2023年8月18~19日) オリンピック記念青少年総合センター

セミナー 「領域横断的な視点が切り拓く音楽教育の新たな世界」その1
—ヒトの進化と音楽、リズム、動き、言語— 長谷川眞理子 (自然人類学)

課題研究 「『生成の原理』に基づく音楽科授業における音楽科の教科内容の体系」
その2 教科内容の観点からみた教材研究の視点

支部プロジェクト

- I 近畿支部 「身の回りの素材から生まれる音の可能性—素材の比較を通して—」
- II 中国支部 「変わりゆく民謡—日本民謡の可能性を探る—」

第29回全国大会 (2024年8月24~25日) 広島女学院大学

セミナー 「領域横断的な視点が切り拓く音楽教育の新たな世界」その2
—理性と感性の接点— 永田 紅 (歌人・細胞生物学研究者)

課題研究 「『生成の原理』に基づく音楽科授業における音楽科の教科内容の体系」
その3 教科内容における文化的側面の位置づけ

参加型教材実験プロジェクト

- I 中部支部 「保育・学校教育で扱う歌の特徴や魅力を探る」
- II 四国支部 「奏法と音色の追究から生まれる箏の魅力」

◆第29回全国大会 (広島) の様子



第30回全国大会 (2025年8月23~24日) 大阪教育大学

セミナー 「領域横断的な視点が切り拓く音楽教育の新たな世界」その3

—文楽にみる近世の社会と芸能—

久堀裕郎 (大阪公立大学)、竹本織太夫 (太夫)、鶴澤清暲 (三味線)

課題研究 『『生成の原理』に基づく音楽科授業における音楽科の教科内容の体系』

その4 教科内容における技能的側面の位置づけ

参加型教材実験プロジェクト

I 北陸支部

「歌唱指導に向けた『文化的側面』の捉え方—歌唱共通教材《夏の思い出》
の第2時：思考・判断の場面を想定して—

II 九州・沖縄支部

「声の表現の可能性を探る」—誌(言葉)・色とのコラボレーションから

◆第30回全国大会(大阪)の様子

